

確率・統計 A 演習問題 No.3

1. P を (Ω, \mathcal{B}) 上の確率とする. このとき, $A_i \in \mathcal{B}$ ($i = 1, \dots, n$) $\Rightarrow P(\bigcup_{i=1}^n A_i) \leq \sum_{i=1}^n P(A_i)$ を帰納法により証明せよ.
2. \mathcal{B} を Ω 上の σ -集合体とし, 事象列 $A_i \in \mathcal{B}$ ($i = 1, 2, \dots$) に対し
 $B_1 = A_1, B_i = A_1^c \cap \dots \cap A_{i-1}^c \cap A_i$ ($i = 2, 3, \dots$)
 とおく. このとき以下を示せ.
 (a) $A_i \supset B_i, \quad (b) \bigcup_{i=1}^n A_i = \bigcup_{i=1}^n B_i$ ($n = 1, 2, \dots$), $(c) \bigcup_{i=1}^{\infty} A_i = \bigcup_{i=1}^{\infty} B_i, \quad (d) B_i \cap B_j = \emptyset$ ($i \neq j$).
3. 以下を示せ.
 (a) 事象列 $\{A_n\}$ が単調増加列 $\Rightarrow \{A_n^c\}$ が単調減少列,
 (b) 事象列 $\{A_n\}$ が単調減少列 $\Rightarrow \{A_n^c\}$ が単調増加列.
4. P を (Ω, \mathcal{B}) 上の確率とし, $\{A_n\}$ を \mathcal{B} に属する事象列とする. このとき, $P(\lim_{n \rightarrow \infty} A_n) \leq P(\overline{\lim}_{n \rightarrow \infty} A_n)$ を示せ.
5. P を (Ω, \mathcal{B}) 上の確率とし, $\{A_n\}$ を \mathcal{B} に属する事象列とする. $\{A_n\}$ が単調減少列ならば $P(\bigcap_{n=1}^{\infty} A_n) = \lim_{n \rightarrow \infty} P(A_n)$ となることを示せ.
6. (Ω, \mathcal{B}, P) を確率空間, $A_1, A_2, \dots \in \mathcal{B}$ とする. このとき $\sum_{n=1}^{\infty} P(A_n) < \infty \Rightarrow P(\overline{\lim}_{n \rightarrow \infty} A_n) = 0$ を示せ.
7. P を (Ω, \mathcal{B}) 上の確率とする. このとき以下を示せ.
 (a) $P(A_n) = 0$ ($n = 1, 2, \dots$) $\Rightarrow P(\bigcup_{n=1}^{\infty} A_n) = 0,$
 (b) $P(A_n) = 1$ ($n = 1, 2, \dots$) $\Rightarrow P(\bigcap_{n=1}^{\infty} A_n) = 1.$
8. 標本空間を $\Omega = \{1, 2, 3, 4, 5, 6\}$ とし, $\mathcal{B} = \wp(\Omega)$ とする. $A \in \mathcal{B}$ に対し, 集合関数を $P(A) = \#(A)/6$ で定義する. このとき, P が (Ω, \mathcal{B}) 上の確率となっていることを示せ.
9. P を (Ω, \mathcal{B}) 上の確率とし, $A_1, A_2, A_3 \in \mathcal{B}$ とする. このとき
 $P(A_1 \cup A_2 \cup A_3) = P(A_1) + P(A_2) + P(A_3) - P(A_1 \cap A_2) - P(A_2 \cap A_3) - P(A_3 \cap A_1) + P(A_1 \cap A_2 \cap A_3)$
 となることを計算により示せ.
10. P を (Ω, \mathcal{B}) 上の確率とし, $A_1, \dots, A_n \in \mathcal{B}$ とする. このとき
 $P(\bigcup_{k=1}^n A_k) = \sum_{k=1}^n P(A_k) + \sum_{k=2}^n (-1)^{k-1} \sum_{(i_1, \dots, i_k)} P(A_{i_1} \cap \dots \cap A_{i_k})$
 となることを示せ. ただし, $\sum_{(i_1, \dots, i_k)}$ は $1 \leq i_1 < \dots < i_k \leq n$ を満たす i_1, \dots, i_k の組みのすべてにわたる和を表わすものとする. (ヒント: 帰納法を使う).